



～令和7年春号～



島根大学医学部
創立50周年

『道』

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむ無かれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。



薫風が若葉を揺らし、夏の訪れを感じさせます。皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2025年4月循環器内科には木村碩達(ひろと)先生、福田星(しょう)先生、山本悠太郎先生の3人の専攻医を迎えました。新しい力を得て、また前進できます。国立循環器病研究センターに2年半勤務された坂本考弘先生には出雲市立医療センターと島根大学病院循環器内科連携助教として戻っていただきました。臨床研究を活性化していただきたいと期待しています。さらに5月から東京医大八王子医療センターから三樹祐子先生に加わっていただきました。当科として念願でありました不整脈専門医が在籍していただけることになりました。



三樹祐子先生と

昨年度専攻医として入局の3人の先生方は大学で1年間の循環器内科研修を経て、田中俊太郎先生が益田赤十字病院、長谷川友哉先生が済生会江津総合病院、花本航希先生が島根県立中央病院に赴任していただきました。地域で必要とされる循環器内科医として活躍

札幌心臓血管クリニックの先生方と
(前列中央・藤田勉理事長、後列向かって右・三浦重禎先生)

2024年度入局の専攻医3名と2025年1月エコー・ハワイにて



2025年1月大田地区新年会



2025年4月医局歓迎会

を願っています。札幌心臓血管クリニックで1年間の冠動脈治療の研鑽を積んだ三浦重禎先生には島根県立中央病院に戻っていただき、交代で島根県立中央病院から村上慧先生に札幌心臓血管クリニックへ不整脈治療の研修に行っていただきました。

島根大学医学部創立50周年

島根大学医学部は、前身の島根医科大学が1975年10月開設以来、多くの皆様に支えていただき、2025年10月で創立50周年を迎えます。この記念すべき機会に、次の50年に向けて新たな一步を踏み出すべく、学生や若手医師の教育環境を向上させるための「新教育棟」の建設を計画しております。この壮大なプロジェクトを実現するためには、皆様のご支援が不可欠です。ご寄附は金額にかかわらず、新教育棟の建設および運営に充てさせていただきます。詳しくは**島根大学医学部創立50周年ホームページ**をご参照ください。

島根大学医学部附属病院は1979年10月15日診療開始されています。1979年は私も含め4期生が入学した年になります。1期生の卒業が1982年、4期生の私は1985年に卒業しました。1989年には日本初の生体肝移植が行われ、院内にマスコミがあふれていたことを思い出します。その後、1999年4月に看護学科が設置され、2003年10月に島根大学と統合し島根大学医学部と名称変更となりました。

内科学第四の歴史をたどりますと、1980年4月に設置され診療開始となっています。医学部開設から5年後であり講座としては45周年になります。

第四内科（後に内科学第四）は初代教授が森山勝利教授、1993年から高島利一教授、そして2008年から田邊が引き継ぎました。2004年から初期臨床研修医制度

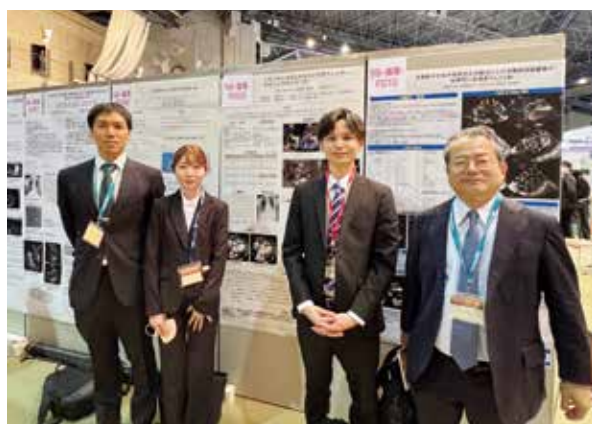
が始まり、2018年からは新専門医制度が始まりました。時代は移り変わりますが、医師養成の根幹は変わらないと思っています。50周年を記念して鬼形和道先生（前医学部長）、椎名浩昭先生（現病院長）、谷口栄作先生（島根県医療統括監）、私の4期生4人の対談がありました。大学病院でも地域でも「先生に診てほしい」と言われる医師を養成していく必要があることに変わりはなく、そこに近道はないという4人の気持ちは一致しました。

2025年4月より腎臓内科が内科学講座（腎臓内科）として医学部の講座となりました。同門会も新たに創設されますことをご報告申し上げます。



開学10周年記念誌より当時の第四内科（後列右端が田邊です）

クラウドファンディング達成の御礼・活動報告



「循環器診療の基盤を整え、心不全パンデミックに立ち向かう！」として2024年10月11日からクラウドファンディングに挑戦しました。皆様の温かいご支援いただき、2024年12月9日をもちまして無事終了いたしました。若手医師やメディカルスタッフの教育や研修を支援していくことを大きな柱としておりましたが、早速、2025年5月30日～6月1日国立京都国際会館で開催されました日本超音波医学会第98回学術集会にお

いて検査技師の尾島さん、山崎さんお二人の発表を支援させていただきました。お二人とも初めての学会発表でしたが、立派に発表されました。学会発表は準備の過程から深く勉強することとなり、臨床技術を上げるこの上ない方法です。また、全国の同じフィールドにいる仲間たちを知る重要な機会となります。みなさまのご支援に心より感謝申し上げます。

新入局員紹介



三樹 祐子 先生

不整脈の歩み

～北風と太陽とアントニオ猪木～

「この道を行けばどうなるものか危ぶむ無かれ 危ぶめば道はなし 踏み出せばその一足が道となり その一足が道となる 迷わず行けよ 行けばわかるさ」

28年前、島根医大への入学を決心した時に届いた手紙の言葉です。調べるとアントニオ猪木さんの引退

メッセージとのこと。送り主はプロレス好きの従兄でしたから、「そういうことか・・・」と納得いたしました。私は3年次編入学の1期生（21期）で、補欠合格の知らせが届いたのは4月下旬の入学式前日午後でした。不合格後は気持ちを新たに次の道へ進んでいたため、急遽拓けた出雲への道は戸惑うものでした。冒頭の言葉に、ずいぶん背中を押してもらいながら出雲での生活がはじまりました。

1. 心房細動アブレーションとの出会い

2002年、横浜市内の病院で研修医生活がスタートしました。AFFIRM studyの結果が循環器領域を席捲していた時代です。「心房細動の患者さんにはワーファリンを導入しよう。レートコントロールができていれば、積極的な洞調律化は考慮しなくて良いですよ」。研修で学んだ当時の標準治療はこのようなものでした。次にローテートした心臓外科では、手術伝票の記載は研修医の仕事でした。「術式：僧帽弁置換術+PV isolation」

そんな伝票を何枚も書きながら、隣に座るオーベンに「PV isolationってなんですか？」と訪ねました。オーベンは手法の説明と一緒に「フランスのHaissaguerreという先生が心房細動のカテーテル治療に取り組んでいるようです」と仰いました。(ハイ……先生?)、名前の記憶もできないまま研修医生活は終了しました。

2004年横浜市立大学循環器内科に入局、配属先は藤沢市民病院でした。ある日、患者さんから「先生、近くの横須賀の病院では心房細動のカテーテル治療をしているみたいです。私は受けなくても良いでしょうか？」と質問をうけました。患者さんはその治療についてよくご存知のようでしたが、私にはわかりません。返答に困ってしまいました。

翌年から大学院生として横浜市立大学付属病院に勤務となり、学会に参加するようになりました。「心房細動へのアブレーション治療」と題したセッション会場は大盛況、壇上の先生方が喧々諤々とPro vs. Con討論を繰り広げておりました。心房細動アブレーション黎明期です。高周波アブレーション「肺静脈隔離術」が開始されていること、横須賀共済病院でこの治療に取り組んでいることを知り、ようやく心外オーベンのお話と患者さんからの質問が繋がりました。そうなれば、この治療をみてみたいとなります。CCTでライブが予定されていましたが、神戸まで行く時間はありません。ライブのカテ室はみなと赤十字病院（横浜）と知り、神戸は無理でもここなら行けると考えてCCTライブのカテ室で初めて心房細動アブレーションを目にいたしました。「おお、よくわからないけれど。なんだかすごいな」。見れば取り組みたくなります。その後、この見学をきっかけに様々なご縁に導かれ、群馬県立心臓血管センター内藤滋人先生の門戸をたたくこととなりました。

2. 群馬県立心臓血管センター

レジデントとして3年（2009-2012）、スタッフとして6年（2018-2024）過ごした病院です。2009年当初、心房細動アブレーションは標準治療にいたっておらず、施行可能な病院は限られていました。群馬では内藤先生の「治療の標準化には誰もが施行可能な手技にすることが必要」とのお考えのもと、CARTO System（3Dマッピングのシステム）を用いた術式の指導が行なわれており、全国から習得を志す医師が集まっていました。豊富な症例数が注目されがちですが、丁寧かつ繊細な指導から「考えること」の大切さを教えていただ

きました。様々な経験をしましたが、2011/3/11の出来事は強く記憶に残っております。東日本大震災発生当日の夜、担当患者さんがVT stormに陥ってしまったのです。混乱とバックアップ電源による黄色い薄暗い灯の下、ICDのプログラマーを抱えて「恐怖と家族の心配で気持ちが高ぶりstormの引き金になったのだろう」と思いながらあれこれしました。この経験はのちに「自律神経と不整脈との関係」に関心を持つきっかけとなり、スタッフ時代の治療抵抗性難治性心室頻拍に対する心臓交感神経遮断術へと繋がりました。群馬での9年間はとても貴重な時間でした。

3. 北風と太陽

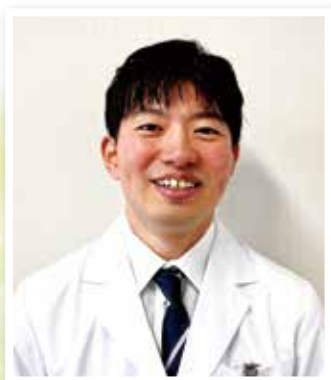
母校島根大学の循環器内科をはじめて訪問したのは2017年です。好きが高じてはじめた心房細動アブレーションは標準治療となり、病院経営で期待される分野となっていました。心房細動の患者さんは沢山いらっしゃいます。代わりのきかない仕事に忙殺され、体も心も限界の時でした。そんな時にふと訪れた母校循環器内科のHP。

『道』という文字とともに冒頭の詩が掲載された医局報を目にした私は、大谷浩先生に紹介の労をおとりいただき田邊先生にお会いさせていただきました。田邊先生は「医局は安全基地である」と、憔悴しきった私に心温まる言葉をかけてくださいました。田邊先生との面会がなければ、続けることはできなかったかもしれません。

不整脈治療は目覚ましい勢いで進化を続けております。そして、昨年から日本でも使用可能となった革新的技術Pulsed Field Ablation（PFA）により心房細動アブレーションは新たな時代へ突入いたしました。一方、時は経ち、以前とは見えるものや考えが変わってまいりました。何時まで不整脈の道のりを歩むのだろうと考えた時に、田邊先生の下で母校の皆様とともにこれまで培った経験を活かす、それは一人では達成できない多くの患者さんへと繋がるだろう。そんなことを考えるようになりました。

医学部に入学した時と同じく、アントニオ猪木の引退メッセージを心に2回目の出雲生活がはじまりました。いくらか年齢を重ねたため『元気があれば何でもできる』も、大切なキーワードです。

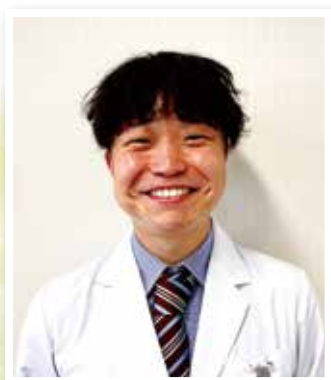
みなさま、温かくむかえてくださりありがとうございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



木村 碩達 先生

今年度から島根大学医学部附属病院循環器内科に入局いたしました、木村碩達と申します。島根県浜田市出身で、島根大学を卒業してからは益田赤十字病院で初期臨床研修を行いました。研修中には、内科一般的なことだけでなく手技の多い診療科であることも魅力を感じていました。忙しい診療科だと思っていましたが、循環器内科の先生方のかっこいい姿を見て、循環器内科に入局をさせていただくことになりました。

これからは先輩方に学びながら技術や知識を身につけるのはもちろんのこと、多職種の方々からも信頼される医師になれるよう精進していきますので、よろしくお願い申し上げます。



福田 星 先生

このたび、島根大学医学部附属病院循環器内科に入局させていただくこととなりました、福田星と申します。兵庫県加古川市出身で、大学への入学を機に島根県に来させていただきました。卒業後は、浜田医療センターで初期研修を行い、島根県での生活もはや9年目となりました。

循環器内科へ興味を持つきっかけとなったのはポリクリで田邊教授から心電図についてご教授いただいたことからでした。その後、緊急疾患に携わりたいとい

う思いを持ちながら進路に悩む中で、初期研修にて循環器内科ローテーション中に指導医の先生方に恵まれました。熱心にご指導いただき、循環器についてこの先深く学びたいと思うことができたことが決めてとなりました。

4月から大学にて日々業務をこなす中で、未熟さを痛感するばかりです。偉大な先輩方から学ばせていただける環境に感謝し、自身から学ぶ姿勢を忘れず精進してまいろうと思います。至らない点多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



山本 悠太郎 先生

このたび島根大学循環器内科に入局いたしました山本悠太郎と申します。島根大学医学部を卒業後、浜田医療センターにて初期臨床研修を修了いたしました。研修期間中、循環器疾患においては病態が明確で、診断から治療まで一貫したアプローチが求められる点に魅力を感じ、循環器内科を志すに至りました。なかでもカテーテル検査に強い関心を抱いており、今後さらなる知識と技術の習得に努めてまいりたいと考えております。入局後は、日々至らぬ点も多く、先生方にご迷惑をおかけする場面もございますが、温かく、かつご丁寧なご指導のもと、充実した毎日を過ごしております。

一日も早く一人前の循環器内科医となれるよう、謙虚な姿勢を忘れず、日々研鑽を積んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。





32期生の坂本考弘です。まず初めに改めて自己紹介をさせていただきますが、2013年に島根大学を卒業し、長野県にある佐久総合病院にて初期臨床研修を行い、2015年に第四内科に入局させて頂きました。2017年からは

3年間益田赤十字病院で勤務した後に大学に戻ってきましたが、様々なご縁にて2022年10月から国立循環器病研究センター 心不全・移植部門 心不全科にスタッフとして異動になりました。2025年4月より再び第四内科に戻らせて頂き、この様に帰局報告が出来ますことを嬉しく思います。

国立循環器病研究センターでは循環器内科の中でも各科に分かれており、心不全科以外にも冠疾患科、不整脈科、肺循環科、心血管系集中治療科、移植医療部に分かれております。心不全科では非虚血性心筋症・弁膜症の疾患が対象となり、主に心筋症・弁膜症の精査、TAVIやM-TEERといった経カテーテル的治療および管理、感染性心内膜炎の内科的加療等が臨床の中心となっております。心不全入院患者さんでも冠動脈病変があれば冠疾患科に、CRT-Dの適応が検討となれば不整脈科コンサルトになりますし、機械的サポートが必要になると集中治療科の対応であったり、移植適応が検討となると移植医療部に転科となったりします。この様に非常に細分化されておりますが、症例数は圧倒的に多く、年に数回しか診なかったような症例が毎週のように入院しており、外来担当患者さんも多

くいました（島根から通われている患者さんも数名いました）。心筋症では拡張型心筋症、肥大型心筋症はもちろんのこと、心サルコイドーシスや心アミロイドーシス、不整脈源生右室心筋症などの心筋症も数多く経験させて頂きました。弁膜症もAS/MR/TRの術前患者さんだけでなく今は数少ないMS患者さんもそれなりに入院されており、経カテーテル的治療の適応となる患者さんも多く入院します。治療も多く、特に私が所属していた期間ではTRISCENDというTTVR（経カテーテル的三尖弁置換術）の治療がありました。他にもカンファレンスではTriclip治療後のフォローの患者さん、今年3月末から適応となったHOCMに対する治療薬であるマバカムテン®の経過フォローの患者さんや心房シャントデバイスの患者さんが話題になることもあり、本邦で今後広まっていくであろう治療を身近に経験することが出来ました。

スタッフ医師、レジデントの数も非常に多く、私が異動した際には心不全科だけで26人いました。スタッフが9名、専門修練医（通称スーパーレジデント、略して



大阪府吹田市にある国立循環器病研究センターです



国循に異動した際の北井先生との会にて



泉先生との送別会にて



スタッフの天野先生と心エコー室の皆さんです

スーレジ)が10名程度、残りがレジデントといった構成でした。専門修練医は後期研修医を終えた6年目~10年目前半くらいまでの医師が中心で、心不全科を選択した心不全科のみを2年間専念するといったコースです。レジデントは主に4年目~10年目位が中心であり、上記の各科を3か月ごとに約3年間かけてローテートするコースになります。心不全科ではスタッフ医師1人に対してスーレジないしはレジデントが1-2人ついてチームを構成して患者さんを診ていきます。基本的な病棟対応はスーレジないしはレジデントが担当医として行ってくれましたが、スタッフ医師は主治医として方針を中心に纏める必要があります。自身のチームを作り診療する事は初めてでしたが、大変貴重な経験をさせて頂きました。スタッフ医師は部門長の泉先生、部長の北井先生をはじめとしてどの先生も全国的にご高名な先生ばかりであり、その一員として活動させて頂き大変恐縮な思いでした。弁膜症・心不全のガイドライン作成のトップの先生方と日々ディスカッションさせて頂くことは大変勉強になり、また出身大学や経験年数も異なる様々な先生方と交流できたのは大きな財産です。ちなみに新患カンファレンスでは司会がスタッフ対象に定期的に回ってくるのですが、この経験を経て学会の座長をすることのプレッシャーが減りました。

検査では主に心エコー図検査に関連する業務が中心であり、経胸壁心エコーのチェック、経食道心エコーの指導および施行、運動負荷心エコーに加えて、心カテ業務(弁膜症の精査や血行動態評価が中心)、心リハにも携わっておりました。これらの経験をまた還元できるように頑張りたいと思います。

また、臨床だけでなく研究にも多く従事させて頂きました。もともと臓器うっ血の研究を中心に行っていたのですが発展した研究を国循で行うことが出来まし

たし、有難いことに企業との共同研究や多施設共同研究にも現在進行形で携わらせて頂いております。医局の談話室でも常に様々な先生方が夜遅くまで研究の打ち合わせをしており、日々病院にいただけでも多くの刺激を頂きました。また、超音波医学会で肺エコーの研究で奨励賞を頂けたのは大変嬉しい思いでした(研究内容自体は島根で行っていた研究になります)。現在まさにこれまで国循行ってきた論文を仕上げておりますので、少しでも早くアクセプトされて恩返しが出来ればと思っています。

なお、余談でこちらは若い先生方に向けてとなりますが、学会活動や論文発表等の一回一回の活動が小さく感じても、そして都市部から離れた地であっても地道に活動していれば見てくれている人は見てくれています(大阪の地でも私が行っていた研究を知ってくれている方にお会いします)。ですので、島根の地域を大事にしながら、県外にも目を向けて活動を続けてもらえたらと思っています。

プライベートでは子供たちは完全に関西弁となりましたが、休日では家族4人で関西圏を色々と巡ることが出来たこと、家族ぐるみの友人が多くできたのも良い思い出です。出雲に戻ってきてから、国循での専門的な経験を活かして島根の地に還元していきたいと思っています。心エコー・心不全に関わる臨床はもちろんではありますが、特に研究におきましては日本、世界をリードできるものに発展していきたいと思っています。新たに多施設共同研究を進める計画もありますので、また実現することになれば具体的にご相談、ご報告できればと思っています。一緒に研究頑張りたい若手の先生方もいつでもご相談下さい！

長文となり大変失礼致しました。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。

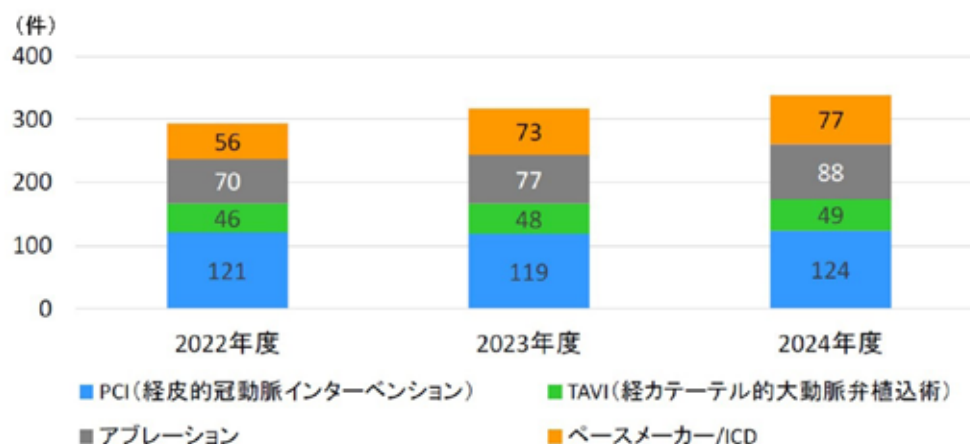


私のチームに所属したスーレジ・レジデントの先生方と最後に送別会をしました



浅沼先生には研究や定期のweb抄読会で大変お世話になりました

循環器内科治療実績



- ・ 経皮的僧帽弁接合不全修復システム（MitraClip）は2023年3月31日に第1例目を行い、2025年5月末までに12例に実施しました。
- ・ 2024年1月にIMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設に認定されました。
- ・ 2025年4月に経皮的心房中隔欠損閉鎖術、経皮的動脈管開存閉鎖術実施施設に認定されました。

業績

論文・著書・総説（2024年秋号以降掲載、掲載決定分）

1. Tanabe J, Wada H, Suehiro S, Yoshitomi H, Endo A, Yamazaki K, Tanabe K. A case of prosthetic valve endocarditis with increased vegetation size despite appropriate antibiotic therapy. J Echocardiogr 2025;23:51-52
2. Tanabe J, Yasuda K, Yamaguchi K, Okada T, Yoshitomi H, Endo A, Tanabe K. Costello syndrome complicated by midventricular obstruction with an apical aneurysm. Circ Rep 2025;7:216-217
3. Sakamoto T, Asanuma T, Sasaki H, Kawahara H, Uchida K, Endo A, Tanabe K. Diagnostic value of lung ultrasound B-lines for evaluating left ventricular filling pressure. Cardiovascular Ultrasound 2025;23:6
4. Endo A, Oda T, Shiota K, Akashi S, Yamashita S, Uchida K, Ohta T, Nakazawa Y, Tanabe K. Comparison of the efficacy of primary percutaneous coronary intervention in super-old and old aged patients in an advanced aging society. J Cardiol 2025;85:404-410
5. Nakata T, Tachi M, Yasuda K, Tanabe J, Kawanami Y, Yamazaki K. Correction of hemitruncus in an adult patient alleviated pulmonary arteriovenous fistula in the affected lung. World J Pediatr Congenit Heart Surg. 2025 Jan;16(1):134-137

6. Kishimoto K, Tobita H, Kataoka M, Yazaki T, Oka A, Ishimura N, Tanabe K, Ishihara S. Changes in hepatic density due to oral amiodarone-induced liver injury shown by computed tomography. Intern Med 2004 (in press)
7. Hasegawa T, Tanabe J, Shimizu K, Watanabe N, Yoshitomi Y, Yamazaki K, Tanabe K. Right atrial myxoma after catheter ablation. J Echocardiogr 2025 (in press)
8. Yamauchi M, Otsuki K, Sato K, Nagahama M, Tanabe J, Inagaki M. Vortioxetine can be used safely to treat depression after implantable cardioverter defibrillator implantation for congenital long QT syndrome: a case report. Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Jun;45(2):e70017
9. Ishiguchi H, Yasuda Y, Mabuchi H, Yamaguchi M, Murakami K, Kinoshita N, Kato T, Yoshida M, Sonoyama K, Imoto K, Okamura T, Endo A, Kobayashi S, Tanabe K, Sano M, Oda T. Post-discharge major bleeding/all-cause death in acute coronary syndrome: academic research consortium criteria versus Japan-specific criteria. BMC Cardiovasc Disord 2025;25:370
10. 佐々木拓志、小田原美穂、津野和美、津枝 忍、本藤由香理、原 歩、嘉戸智啓、山口直人、前田篤慶、中澤芳夫、田邊淳也、田邊一明. 超高齢化地域での多職種による心不全地域連携～高齢化率39%の島根県江津市での取り組み. 島根医学 2025;44:173-178
11. 花本航希、田邊淳也、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. BRASH症候群の一例. 心臓 2025 (in press)
12. 田中俊太郎、田邊淳也、津田洸旬、中島和寿、山崎誠太、岡田大司、渡邊伸英、遠藤昭博、磯部 威、田邊一明. アミオダロン投与早期に間質性肺炎を来した一例. 心臓 2025 (in press)

学会・研究会発表 (2024 年秋号以降)

1. 安田謙二、中嶋滋記、田邊一明. Fontan術後患者における肝線維化指標の臨床的意義. 第26回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会. 2025.1.10-12、大阪
2. 香川雄三、遠藤昭博、田中俊太郎、長谷川友哉、花本航希、田邊淳也、古田まどか、古志野海人、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、岡田大司、渡邊伸英、佐藤寛大、山口一人、田邊一明. A case of ST-segment elevation myocardial infarction one month after surgical aortic valve replacement and unscheduled coronary artery bypass grafting. 第89回日本循環器学会学術集会. 2025.3.28-30、横浜
3. 山崎誠太、田中俊太郎、長谷川友哉、花本航希、田邊淳也、古田まどか、古志野海人、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、山口一人、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明. Association of myocardial salvage index with clinical parameters after early primary percutaneous coronary intervention for patients with acute myocardial infarction. 第89回日本循環器学会学術集会. 2025.3.28-30、横浜
4. 森田祐介、長谷川友哉、田邊淳也、古田まどか、古志野海人、山崎誠太、山口一人、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. Improvement of severe mitral regurgitation due to Libman-Sacks endocarditis with drug therapy for systemic lupus erythematosus. 第89回日本循環器学会学術集会. 2025.3.28-30、横浜
5. 川原 洋、長谷川友哉、花本航希、田中俊太郎、田邊淳也、古田まどか、古志野海人、山崎誠太、森田祐介、山口一人、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. Hemostasis using VIABAHN VBX in a loop shape due to tortuosity: a case report. 第89回日本循環器学会学術集会. 2025.3.28-30、横浜

6. 田邊淳也、古田まどか、古志野海人、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. Two cases of fulminant myocarditis using rapid cytology for classification of disease type. 第89回日本循環器学会学術集会. 2025.3.28-30、横浜
7. Endo A, Oda T, Shiota K, Akashi S, Yamashita S, Uchida K, Ohta T, Nakazawa Y, Tanabe K. Efficacy of primary percutaneous coronary intervention in super-old patients in an advanced aging society. 第89回日本循環器学会学術集会. 2025.3.28-30、横浜
8. Sato H, Endo A, Okada T, Yamasaki S, Koshino K, Yamaguchi K, Morita Y, Kawahara H, Kagawa Y, Watanabe N, Yoshitomi H, Tanabe K. Transcatheter edge-to-edge repair for mitral regurgitation with membranous chordae. 第89回日本循環器学会学術集会. 2025.3.28-30、横浜
9. 古志野海人、長谷川友哉、花本航希、田中俊太郎、古田まどか、田邊淳也、岡田大司、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、吉富裕之、田邊一明. Two cases of Takotsubo syndrome complicated with cardiogenic shock due to different mechanisms. 第89回日本循環器学会学術集会. 2025.3.28-30、横浜
10. 末富 建、福江宜子、石田万里、谷田貝菜津子、谷山真規子、坂本考弘、玉田智子、松浦朋美、田邊一明、中野由紀子. 中四国地区における心臓カテーテル検査清潔業務のタスクシフト. チーム医療セッション シンポジウム2. 第89回日本循環器学会学術集会. 2025.3.28-30、横浜
11. 森田祐介. 心疾患患者における病原性口腔内細菌叢の特徴. シンポジウム4. 第12回日本心臓血管脳卒中学会学術集会. 2025.4.12、広島
12. 山崎誠太、岡田大司、古志野海人、山口一人、佐藤寛大、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明. 膜性腱索によりMitraClipの留置に難渋した重症僧帽弁逆流症の一例. 日本心エコー図学会第36回学術集会. 2025.4.18-20、名古屋
13. 田邊淳也、山崎誠太、山口一人、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 僧帽弁輪部膿瘍穿破による左室-左房交通を合併した感染性心内膜炎の一例. 日本心エコー図学会第36回学術集会. 2025.4.18-20、名古屋
14. 田中俊太郎、岡田大司、山崎誠太、山口一人、佐藤寛大、森田祐介、田邊淳也、吉富裕之、三木崇史、赤木禎治. 経食道心エコー図検査が診断と体位管理に有用であったPlatypnea-Orthodeoxia Syndromeの一例. 日本心エコー図学会第36回学術集会. 2025.4.18-20、名古屋
15. 坂本考弘. 包括的臓器うっ血評価法の検討. 若手心エコーフェローの会1. 日本心エコー図学会第36回学術集会. 2025.4.18-20、名古屋
16. 坂本考弘. Severe ASに対してTAVI施行後に循環不全が生じた一例. 若手心エコーフェローの会2. 日本心エコー図学会第36回学術集会. 2025.4.18-20、名古屋
17. **<優秀演題賞>** 原 咲良、岡田大司、古志野海人、森山繭子、一瀬邦弘、田邊一明. アニフロルマブが有効であった全身性エリテマトーデス関連心外膜炎の1例. 第122回日本内科学会総会・講演会. 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会 ことはじめ2025大阪. 2025.4.19、大阪
18. 田邊淳也、森田祐介、田中俊太郎、山崎誠太、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 心不全入院患者における慢性便秘症と臨床転帰についての単施設後方視的検討. 日本内科学会第132回中国地方会. 2025.5.25、山口市
19. 田中俊太郎、岡田大司、山崎誠太、山口一人、佐藤寛大、遠藤昭博、田邊一明、吉富裕之、三木崇史、赤木禎治. 経食道心エコーを用いた体位評価が低酸素血症の管理に有用であったPlatypnea-orthodeoxia syndromeの1例. 日本内科学会第132回中国地方会. 2025.5.25、山口市

◆第89回日本循環器学会

田邊 一明



2025年3月28日～30日パシフィコ横浜で第89回日本循環器学会学術集会が開催されました。3月29日から急激に気温が下がり真冬の寒さでしたが発表、座長の先生方には移動も含めてお疲れ様でした。今回は4つの新しいガイドラインと2つのフォーカスアップデートが発表されましたが、特に初日の心不全診療ガイドラインの発表は注目されていたと思います。ESC、AHAガイドラインと定義や内服治療の整合性が取られ、またStage A、Stage Bの予防、前心不全の管理の重要性から内容が詳細になりました。入院から外来への移行期管理についても再入院予防にその時期の重要

性から内容が新しくなりました。

個人的にはBNPの使い方にも興味がありますが、心不全学会のステートメントも十分に理解して、前心不全の状態（Stage B）からStage Cに行かせない、退院前後のBNP値で治療は十分に成されているかを考えることも我々の役割になります。日本肝臓学会がALT30以上からかかりつけ医の受診を勧めています（奈良宣言2023）。心不全学会のステートメントもそれを意識したものだそうですので、「高齢者はみんな心不全じゃないか」ではなくて、経過観察から治療介入をきちんと整理してあげてことを意識していきましょう。

◆第36回日本心エコー図学会学術集会

田邊 一明



2025年4月18日～20日、第36回日本心エコー図学会学術集会が名古屋コンベンションホールで開催されました。私はこの学術集会中に名誉会員として認証していただきました。1989年に日本心エコー図研究会として設立され、設立時より参加して勉強させていただきました。1991年の第2回日本心エコー図研究会では「高血圧症を合併した肥大型心筋症の降圧薬選択－超音波ドプラ法による検討」の演題発表をさせていただきました。1994年に日本心エコー図学会に名称変更となり、YIAに挑戦したこともあります。時間が味方してくれたのか、やがて評議員、理事、学会誌のJournal of Echocardiography編集長を務めさせていただくことができました。自分を育てていただいた学会から名誉会員としていただけたことは光栄なことであり、恩師の先生方、共に学び、発表し、雑誌編集に携わっていただいた島根の仲間の皆様に感謝申し上げます。



せっかく大阪にということで、期間中に同門の浅沼俊彦先生、北村順先生と食事会を開催しました。お二人からは有形無形の応援をいただいています。

2025年4月18日～20日、第122回日本内科学会総会・講演会が大阪で開催されました。日本内科学会ことはじめでは初期研修医の原咲良先生が救急外来から受け持たれた症例「アニフロルマブが有効であった全身性エリテマトーデス関連心外膜炎の1例」を発表していただきました。しっかりと準備していただき、発表、

質疑応答も見事でこちらが誇らしい気持ちにしていただけでした。優秀演題賞に選ばれたのも当然という思いです。島根大学からは内分泌代謝内科のご指導で発表された中村真貴穂先生も優秀演題賞を受賞されたとうれしい報告をいただきました。

同門会長挨拶

佐藤内科クリニック 佐藤 秀俊



立夏の候、同門会員、そして医局員の皆様には益々御清栄の事とお慶び申し上げます。

昨年6月の診療報酬改定で特に開業医の先生方は同意書作成など毎日診療以外の業務に費やす時間が増え、お忙しい毎日をお過ごし

のことに拝察いたします。寒暖の差が激しく体調を崩しやすい日々です。皆様どうかご自愛くださいますようお願い申し上げます。

本年度の同門会総会は、令和7年11月1日土曜日に出雲ロイヤルホテルにて行うことにしております。本年の同門会総会も昨年と同様に第一部で同門会員あるいは医局員の学術講演会を行い、第二部で同門会総会、食事会を行うことといたします。皆様には詳細を改めてご案内をさせていただきますが、同日のスケジュール調整を早速お願いできれば幸いです。たくさんの皆

様のご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の同門会総会で岡田先生から依頼がありましたクラウドファンディングも皆様のご支援により無事達成したようで、今後の島根県全域での循環器診療が充実したものになることを期待しております。例年5月に開催しております春の田邊杯ゴルフコンペ（医局コンペ）は、ゴルフ幹事の井上副会長のご尽力により、5月11日曜日に大社カントリーで開催されました。今回は3組11名の同門会と医局の先生の参加があり、楽しく笑い声の絶えないラウンドであったと思います。新入局の先生3名の方もととてもさわやかな好青年ばかりで、第四内科の未来も明るいと感じました。コンペの優勝者など詳細は井上副会長からのご報告にお任せいたします。

これからも更に内科学講座内科学第四が発展することを願い、同門会として全力で応援させていただきます。今後とも私と井上副会長に皆様のお力添えをいただきますようどうかよろしくお願い申し上げます。

令和7年5月12日

第31回第四内科田邊杯ゴルフコンペ結果報告

同門会ゴルフ幹事 井上 慎一



令和7年5月11日、第31回田邊杯ゴルフコンペがいずれも大社カントリークラブで開催されました。朝方に降っていた雨はラウンド中なんとか踏み留まり、最後までゴルフに集中することが出来ました。

今回は最終組でスタートした佐藤寛大先生が優勝カップに名を刻みました。序盤は我慢のゴルフに徹し、後半に入り上位陣を猛追、終盤で捲くって見事栄光を手に入れました。恐ろしく速いヘッドスピードから繰り出される

彼のショットは傍で見ても気持ちが良いものでした。本当におめでとうございます。ドラコンは佐藤寛大先生、川波由佳先生、ニアピンは後藤泰利先生、森田祐介先生、古志野海人先生が獲得され、私もいただきました。

また、今回は3人の新入局の先生方全員の御参加がありました。木村碩達先生、福田星先生、山本悠太郎先生、本当にご苦勞様でした！是非これからもゴルフを楽しんで下さい。川波由佳先生は久しぶりのラウンドとの事でしたが、センスの良いスイングは健在で将来の優勝候補です。

春の田邊杯は新入局の先生方との出会いがあり特に楽しいコンペです。今回も有意義な時間を過ごすことが出来、御参加頂いた先生方には重ねて御礼申し上げます。次回の田邊杯は同門会総会翌日の令和7年11月2日(日)の予定です。多くの先生方の御参加を心からお待ちしております。



順位	競技者名	out	in	GROSS	HDCP	NET
優勝	佐藤 寛大	47	45	92	19.2	72.8
準優勝	後藤 泰利	45	44	89	14.4	74.6
3位	井上 慎一	44	43	87	9.6	77.4
4位	古志野海人	57	61	118	39.6	78.4
5位	木村 碩達	58	70	128	44.4	83.6
6位	森田 祐介	56	53	109	25.2	83.8
7位	田邊 一明	58	70	128	42	86
8位	佐藤 秀俊	62	60	122	36	86
9位	川波 由佳	69	83	152	55	97
10位	山本悠太郎	66	89	155	55	100
11位	福田 星	71	85	156	55	101



道

編集後記

2025年4月に大阪で開催された日本内科学会総会での生物学者・福岡伸一先生の特別講演は著書を愛読させていただいていたこともあり楽しみにしていました。生命には物質の下る坂を登ろうとする努力があり、無生物は下り続ける。つまり生命はエントロピー増大の法則に抗している。生命は分解と合成という相反することを同時に行い、しかも積極的に壊すことによって作り直されており（動的平衡）、こうして生命は、物質が下る坂を登り返す。しかし合成よりも分解が勝るため、動的平衡の流れには行く末があり、よって生命は有限である。一瞬、生命をともし、また他者に手渡す。生命はこの流れの中にある。何事にも終わりがあり、終わることによって始まることがある。

（田邊）



島根大学医学部内科学講座内科学第四

循環器内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html